

CASBEE札幌(暫定版)

評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE_Sapporo2014v1.0 使用評価ソフト: CASBEE札幌2014 (ver.1.1)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	札幌駅前共同ビル	階数	地上13F地下1階
建設地	札幌市中央区北2条西3丁目1-7	構造	S造
用途地域	商業地域、防火地域	平均居住人員	1,400 人
気候区分	2地域	年間使用時間	3,650 時間/年
建物用途	事務所、飲食店、工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2017年1月 予定	評価の実施日	2015年2月28日
敷地面積	1,654 m ²	作成者	清水建設 根ヶ山
建築面積	1,368 m ²	確認日	
延床面積	18,817 m ²	確認者	



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)	2-2 ライフサイクルCO ₂ (温暖化影響チャート)	2-3 大項目の評価(レーダーチャート)
<p>BEE = 1.6</p> <p>S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★</p>	<p>標準計算</p> <p>①参照値 ②建築物の取組み ③上記+②以外の ④上記+</p> <p>このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです</p>	

2-4 中項目の評価(バーチャート)		
<p>Q 環境品質 Qのスコア = 3.2</p>		
<p>Q1 室内環境 Q1のスコア = 3.2</p>	<p>Q2 サービス性能 Q2のスコア = 3.4</p>	<p>Q3 室外環境(敷地内) Q3のスコア = 3.1</p>
<p>LR 環境負荷低減性 LRのスコア = 3.6</p>		
<p>LR1 エネルギー LR1のスコア = 3.8</p>	<p>LR2 資源・マテリアル LR2のスコア = 3.7</p>	<p>LR3 敷地外環境 LR3のスコア = 3.1</p>

3 設計上の配慮事項		
<p>総合</p> <p>注) 設計における総合的なコンセプトを簡潔に記載してください。</p> <p>札幌市のメインストリートに対して新たなランドマークとなるような外観にするとともに、開放感のあるファサードによって、賑わいがあふれる商業空間を創出している。また、最新の設備や技術を駆使し省エネルギーに配慮し、BCP対策も備え、利用者と周辺環境に配慮した計画としている。</p>		<p>その他</p> <p>注) 上記の4つのカテゴリー以外に、建設工事における廃棄物削減・リサイクル、歴史的建造物の保存など、建物自体の環境性能としてCASBEEで評価し難い環境配慮の取組みがあれば、ここに記載してください。</p>
<p>W (Global Warming) 省エネルギー・省資源</p> <p>注) 「W (Global Warming) : 省エネルギー・省資源」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。</p> <p>外装は縦連窓とPC外壁の組合せで日射を制御し、空調負荷低減を図るデザインとしている。またLow-eペアガラスや断熱サッシを採用し、高い外皮性能を持った建物としている。</p>	<p>G (Green) 緑化</p> <p>注) 「G (Green) : 緑化」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。</p> <p>敷地西側の2mセットバックした所に中木をリズムカルに配し、自然と建築が一体となった計画としている。それにより、歩道状空間を歩道と店舗を柔らかく結ぶファースペースともしている。</p>	<p>S (Snow) 雪処理</p> <p>注) 「S (Snow) : 雪処理」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。</p> <p>ファサードはフラットで雪だまりのないディテールとし、落雪、落水のリスクを回避している。また、敷地と連続する街路をロードヒーティングとし、路面が凍結しない歩行者に優しい計画としている。</p>

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質), L: Load (建築物の環境負荷), LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性), BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される